

早期栽培用酒造好適米有望系統 「高育酒 80 号」の栽培特性

表「高育酒80号」の生育ステージ、成熟期の生育、収量および品質

試験地	品種・系統名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (mm)	穂数 (本/㎡)	精玄米 千粒重 (g)	精玄 米重 (g/㎡)	同左 対照比 (%)	整粒割合			心白発 現率 (%)	心白率 (%)	検査 等級 (1-9)	玄米タン パク質含有 率 (%)
										合計	心白整 粒割合 (%)	無心白整 粒割合 (%)				
農技セ	高育酒80号	7/ 3	8/ 6	69	192	362	26.7	458	111	65.7	33.8	31.9	54.8	59.7	3	6.68
	(対照) 風鳴子	7/ 2	8/ 7	73	196	377	27.8	414	100	20.1	20.0	0.1	42.8	90.6	3	6.77
南国市	高育酒80号	6/26	7/26	68	177	283	28.1	462	114	56.6	35.4	21.2	-	-	2	6.92
	(対照) 風鳴子	6/20	7/28	75	175	262	28.2	407	100	27.6	27.2	0.4	-	-	2	6.73
高知市	高育酒80号	6/28	7/28	74	195	285	29.0	555	125	58.5	32.7	25.8	-	-	2	6.75
	(対照) 風鳴子	6/24	7/27	71	196	257	29.3	444	100	37.6	37.4	0.2	-	-	3	7.14

注1) 農技セデータ:2013~2016年の平均値(整粒割合は2016年のみ、心白発現率および心白率は2014~2016年)。移植期は4月12日~4月22日、窒素施肥量は6~7.5g/㎡(全量基肥施用)、栽植密度は20.8株/㎡。粒厚2.0mm以上の玄米を精玄米とした。精玄米千粒重、精玄米重は水分15%換算値。整粒割合は穀粒判別器(RGQI10A)醸造用玄米判別パッケージで、心白発現率(心白発現粒数÷全粒数×100)および心白率((5大+4中+2小)÷5n×100、大、中、小は心白の大きさ、nは心白発現粒数)は目視で、玄米タンパク質含有率は近赤外分析計(NIRFlex N-500)で、精玄米を対象に測定した値。
検査等級は1~3が1等、4~6が2等、7~8が3等、9が規格外に相当。
注2) 南国市および高知市データ:2016年の試験結果。南国市では移植期:4月6日、窒素施肥量:6.8g/㎡(全量基肥施用)、栽植密度:15.2株/㎡、高知市では移植期:4月12日、窒素施肥量:8.0g/㎡(基肥+穂肥体系)、栽植密度:18.5株/㎡。その他の項目は注1と同じ。-は未調査。



写真 「高育酒 80 号」(左)と「風鳴子」(右)の玄米(2016 年産)

高知県の早期栽培用酒造好適米「風鳴子」は、心白が大きく(写真)搗精時に碎米が発生しやすいこと、外観品質が2等以下への格付けが多い(平成28年産米の1等米比率0%)ことから、現在では2ha程度しか作付けされていません。一方で、第3期産業振興計画において「土佐酒のブランド化」が重要施策に位置づけられており、酒造メーカーや生産者からは、「風鳴子」の欠点を改良した新たな品種の育成が求められています。

そこで、当センターでは、「高育酒 80 号(高系酒 356)」を育成し、その碎米率は「風鳴子」に比べ低く、その他の酒造および醸造適性項目についても「風鳴子」並みであることをセンターニュース第 85 号で紹介しました。今回は「高育酒 80 号」の栽培特性について紹

介します。

「高育酒80号」は、「風鳴子」と比較して、出穂・成熟期、稈長、穂長、穂数および玄米タンパク質含有率は同程度で、精玄米千粒重はやや軽いものの、精玄米収量は11%多く、整粒割合、心白発現率が高く、心白率も低くなっていました。また、南国市および高知市における現地試験でも、精玄米収量が多く、整粒割合が高いことが認められました(表)。

以上より、「高育酒80号」は、「風鳴子」より多収・高品質であり、本県早期栽培における栽培特性が優れることが分かりました。今後は、外観品質、収量および酒造適性を安定させる栽培法について、検討していきます。

(水田作物担当 赤木浩介 088-863-4916)